2022 年度
〈梅春〉ブリスベン研修
報告書

● 授業概要

大学教育再生加速プログラム（AP 事業）であった長期学外学修プログラムを本学独自の継続事業として実施。現地に長期間滞在し、生活をしながら提携校での英語集中講義、その他の講義を受講する。英語力の向上はもちろん、現地校の授業を実際に体験すること、現地学生との交流を通して異文化の中で生きる経験を身に付けること、異なる言語、習慣、宗教、文化を受け入れ、尊重して生活することの重要性を体験し理解することにより、グローバルな対応力を身に付けることを重要な目的とする。

● 到達目標

コミュニケーション力、伝統・文化理解力、グローバルキャリアデザイン志向を習得し、異なる環境、価値観の中で得られる外国でのコミュニケーション能力又は現地の文化習慣などの知識を身につけ「グローバルな創造力と耐性」の育成を目的とする。

● 研修スケジュール(2023 年 2 月 18 日～3 月 13 日)

日	月	火	水	木	金	土
12	13	14	15	16	17	18 成田空港発(21:00)
19 ゴールドコースト着(6:40) 専用車でUNILODGEへ	20 General English @ TAFE (9:15～12:30)	21 General English @ TAFE (9:15～12:30)	22 General English @ TAFE (9:15～12:30)	23 天皇誕生日 General English @ TAFE (9:15～12:30)	24 振替休日 General English @ TAFE (9:15～12:30)	25 自由行動
26 自由行動	27 General English @ TAFE (9:15～12:30)	28 General English @ TAFE (9:15～12:30)	1 General English @ TAFE (9:15～12:30) ファッションブランド見学 (15:00~16:30)	2 General English @ TAFE (9:15～12:30)	3 General English @ TAFE (9:15～12:30)	4 ブリスベン発→ゴールドコースト着(電車) ホテルチェックイン(15:00)
5 ゴールドコースト滞在	6 ゴールドコースト発→ブリスベン着（電車）	7 Fashion program @ TAFE	8 自由行動	9 Fashion program @ TAFE	10 Fashion program @ TAFE	11 UNILODGEチェックアウト後、専用車で空港へ ゴールドコースト発(15:45) 成田空港着(23:10)
12	13 事後教育 @ 文化学園大学 (10:00～17:00)	14	15	16	17	18

● 成果と課題

本年度は、開講が不可能となった「<梅春>シドニー研修」の履修者 6 名のうち「<梅春>ブリスベン研修」への変更を希望した 4 名を加えた合計 10 名で研修を実施した。その結果、3 学部 5 学科に在籍する 1 年生から 3 年生が参加する多様性の高い研修となった。

本研修は英語プログラムを軸とし、現地での体験を通してグローバルな対応力を身に付けることを目的としている。教員が引率しないため、想定外の状況に置かれた際には自分たちで対応する必要があることを学生にはオリエンテーションや事前研修で繰り返し周知した。

ほとんどの学生が自らの英語でのコミュニケーション力の拙さを痛感していたが、日本以外の地域から学びに来ている学生が文法の知識が乏しいにもかかわらず口頭でのコミュニケーションは出来ていることに驚いたという感想や、間違いを恐れることなく話し、積極的に質問している姿勢に感銘をうけたという意見が多くの学生から出された。

こうした発見は極めて基本的なことではあるが、様々な国や地域から学生が集まる現地での研修に参加したからこそ得られる学びであり、また、英語に限らず様々な学修においても当てはまるものである。

研修での経験を新年度以降の学修意欲向上や学びの動機付けとなるようプログラムを設計することは、AP 事業として実施していた頃からの梅春科目の特徴であり、本年度の研修はこのようなプログラム設計がうまく機能していたと考えられる。

このように研修プログラムの内容に大きな問題はなかったが、スケジュールの確定や渡航許可の取得など準備段階で情報伝達に漏れやミスがあったこと、さらには事件・事故や病気・怪我以外の緊急対応をどのように行うかが課題として残った。

造形学部デザイン造形学科　3年

● 履修の目的・目標

梅春ブリスベン研修に行く目的は、日常会話ができる程度の英語力を身につける事だ。英語を理解し話せることで、人とのコミュニケーションの輪や物事に関する視野が広がると考える。目標は、海外に行った際に言葉の壁があっても、動じない精神を身につけることだ。通じなくても諦めずに伝えようとする態度を心がけたい。英語の理解が完璧でなくとも、海外の人とコミュニケーションを取れるようになることが目標である。

● 研修で最も印象にのこったことについて

最も印象に残ったことは、帰国の時だ。帰国する前日、寮の部屋の私物を片付けるのに必死だった。オーストラリアでは自炊する事が多かったため、食材を消費することが困難だった。パッキングでは、紅茶の箱などの嵩張る物を減らし、何とかスーツケースを閉めることができた。後は荷物検査を終えて飛行機に乗って帰るだけだと安心していた。飛行機に搭乗し、一度寝て目が覚めた時、すでに飛行機は飛んでいると思っていた。しかし、何か問題があったようで飛行機は飛ばず、機内は暑苦しかった。飛行機が出発したのは約4時間後であり、日本に着いたのは24時近くだった。中々来ないタクシーを何とか捕まえて家に帰宅する事ができた。予めスケジュール管理や荷物整理をし、食材やお土産を買うべきだと感じた。また、思った通りに物事が進まないことを想定して行動するべきだと学んだ。

● 研修を通して気づいた事・学んだこと

研修を通して気づいた事は大まかに二つある。一つは食品についてだ。ピーナッツ卵、小麦などのアレルギーを起こしやすい食品に関しては、アレルギー表記が分かりやすく「contains」「may be contains」と表記されていた。表記の仕方に気づくまでは少し苦労した。また、オーストラリアのカフェでは、口頭で名前を聞かれることを知った。初めてカフェで購入した際に名前を聞かれて不思議に思ったが、順番が来た際に呼ぶ為に店員が客に名前を聞くのだと知った。日本のカフェで名前を口頭で聞かれることがないため、新鮮な体験だった。二つ目は、オーストラリアのバスについてだ。日本と違い車内放送が流れないため、どの駅を過ぎたのか分かりにくく神経をとがらせ、グーグルマップの位置情報を確認しながら乗っていた。食品表示や会話する際にもグーグル翻訳に頼ったが、やはりネット環境やスマートフォンがなければ生活するのが困難だと改めて感じた。

● 今後の学生生活に活かしたいこと

留学で大変だったことは、言語の壁があったことだ。クラスメイトと話したくても英語が喋れず、会話をすることは少なかった。それでもSNSのアカウントだけは交換しク

ラスメイトと繋がることができた。英語を話すことができればもっと交流することができるので、日本で過ごす間も英語を聴き学ぶようにしたい。今回、オーストラリアに滞在しながら日本企業のインターンシップの書類審査を通過し選考面接に参加した。無事に選考に通りインターン参加が決まった。オーストラリアで書類を作成し面接するのは大変だったが、諦めずに挑戦してよかった。全く英語力がない状態で留学に挑戦したので、ある意味無謀だった。しかし、留学を経験したことで、文化の違いを知り、より一層英語を話せるようになりたいと思えた。今後の学生生活で、留学経験を活かし試してみたいことは迷わず挑戦しようと決めた。また、英語でも日本語でも人に伝える努力を怠らないようにしたい。

服装学部ファッション社会学科　2年

● 履修の目的・目標

目標は、初めての短期留学で、新しい環境に挑戦の中で新しい発見や学びを得て、自分を成長させ語学力をあげること。

学習面での目的は、英語で問いかけられた時受け答えができるようにすることと、現地の方のネイティブな英語を聞いて理解すること。生活を通しての目的は、同じクラスになったクラスメイトとコミュニケーションをとることと、日本とは全く違うわからない環境の中で、主体性を持って活動できるようになること。

● 研修で最も印象にのこったことについて

フレンドリーな人が多く、気さくに話しかけてくれることが日本との違いを感じ、印象に残った。街ではお店に入ると必ずと言っていいほど、挨拶をして何か手伝うことはあるか尋ねてくれたり、駅やバス停ではどこに行きたいのかを聞いてくれて、どのバスに乗れば行けるかまで教えてくれた。自分たちから尋ねれば必ず教えてもらえたがそれ以上に、街の人から話しかけてくれることが多かった。困っていそうな人や知らない人に自ら話しかけることは日本では躊躇してしまうことだったので、驚いたとともに優しい国民性がとても素敵だと思った。他にも、UNILODGE や TAFE では事あるごとに話しかけてくれるフレンドリーな人が多かった。初対面でも気軽に話しかけてくれるフレンドリーさは、仲良くなりたいと思っても話しかけられない性格の私にとっては有難いことであった。こういった人と関わることで自分ももっと自分から話しかけフレンドリーになりたいと思った。

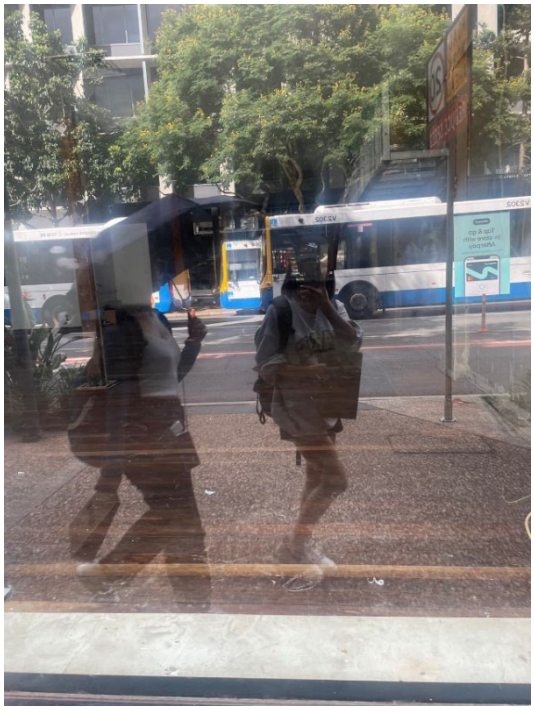
● 研修を通して気づいた事・学んだこと

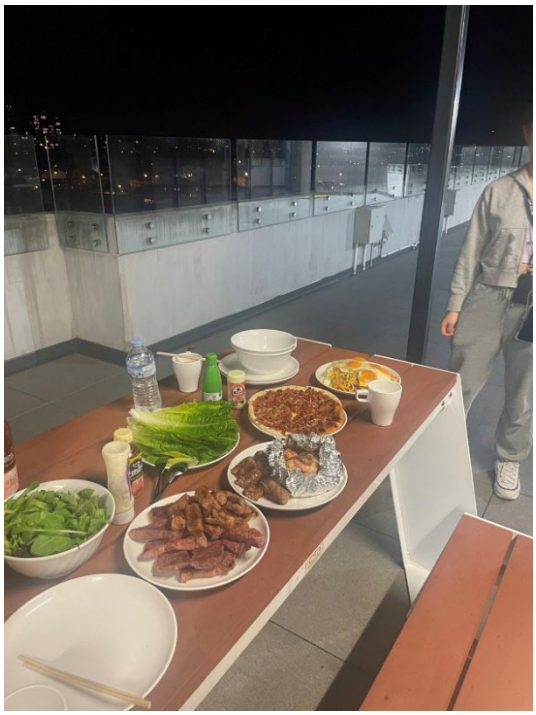
今回の研修を通して気付いたことは二つある。一つ目は、現地の人と会話をするには中学英語の文法と単語の知識があれば困らないこと。行く前は英語で話せるかが一番不安要素だったが、クラスメイトと会話する際、緊張さえしなければ、簡単な英語を使いジェスチャーも交えることで会話ができた。話しているうちに知らない単語を学ぶ機会も多かった。机に向かって英語を勉強するより現地の人と英語で話すことのほうが効率のいい勉強法であり自分には向いていると気付いた。二つ目は、積極的になることの重要性。クラスメイトは授業中我先にと間違えても発言をする人が多かった。そしてわからないところは先生にすぐ聞いていた。日本ではあまり見ない光景で実際 TAFE でも私はあてられるまで発言できなかった。授業中の発言だけでなくフレンドリーに話しかけるところも一貫して積極的なことは自分の知識や交友関係など全てを広げるために重要で自分にない部分だと気付いた。

● 今後の学生生活に活かしたいこと

今回の経験では、英語はもちろん日本の外で過ごすことで外国と日本の違いを学び、いろいろな国の人とコミュニケーションをとることが自分の中で最大の刺激となった。自分の長所短所を見つめ直すいい機会にもなった。このことから、これからの学生生活では自分の将来像を見つめ直しやりたいことに集中していきたいと思う。その中でも、この三週間で海外

での生活、外国人と関わることが私にとってとても好きな事だと実感したと共に、自分の英語力の無さ、もっと語学力があったらたくさんコミュニケーションをとれるのにと悔しい気持ちも抱いたのでこの気持ちを忘れず、英語力を伸ばすため英語の勉強に力を入れていきたい。行く前と行った後では英語に対しての意欲がかなり変わった。ファッションと英語を中心に学び、国内でも外国人と交流できるところに行きたい。そして、ブリスベンやゴールドコーストの海や川とビルの美しい景色が今まで見た景色の中で一番の財産になりお気に入りの場所、景色なので、また行きたいと思う。現地でつながった人ともいつか再会できることを願って英語の勉強に励む。





国際文化学部国際ファッション文化学科　2年

● 履修の目的・目標

今回のプログラムでの目標は三つあり、日常会話での英語を聞き取ることと自分の意見を諦めずに伝えること、他の国のファッションを見て将来の目標のヒントを得ることです。明確な将来設計が決まっておらず先に進めていないので、現地で他文化の刺激を受け、自分の興味、目指す職業のヒントを得て残りの在学期間の行動をより充実させることの出来る学びを行いたいです。

● 研修で最も印象にのこったことについて

ホリフェスティバルというインドのイベントに行った時や街でパーティーバス二であった時など、見ず知らずの人が一緒にイベントを楽しんで盛り上がりました。日本では他人とかかわるなんてめったにないので、ひとつひとつがとても楽しかったです。

初日のTAFEのオリエンテーションで携帯使用禁止・飲食禁止と説明を受け、次の日の授業に挑みました。ドキドキしながら参加したら、隣の人はバナナブレッドを食べ、皆は大遅刻＆コーヒーを飲んでいて、あれ？ルールは？となりました。日本人は真面目な性格なんだと気づかされました。

バスの運転は荒く早い電車はとても遅いです。遅いモノレールくらい遅くてびっくりしました。一回きつめのバス酔いに陥ってしまいはく寸前で降りるよと声をかけられたときは本当に神様に感謝しました。バスは二度と乗車したくないと思えたできごとでした。

● 研修を通して気づいた事・学んだこと

街で買い物をしていたら、知らない女性から服装をほめてもらったことがありました。自分が美しい素敵と思った物に対して、すぐに感想を言える豊かな感性をもつ方が多いと思いました。

店やまつりの屋台まで多くの店がキャッシュレスの店でした。日本に比べてキャッシュレス化進んでいる印象を受け、技術や性能は日本のほうが上だと思いましたが、新しいものを取り入れるスピードはオーストラリアのほうが早いのかなと思いました。

学校の授業で自分より文法を解けていないのに、周りの学生のほうが先生とスムーズにコミュニケーションをとれていました。会話するときに私はどうしても言いたい文章の構成を頭の中で考えてから話そうとしてしまい、最初はうまく話せませんでした。授業で会話に慣れていく中で文章を構成する力より伝える努力を諦めないことが大切だと思いました。

中国の方と一人っ子政策について話した時に他国の問題をある程度知ることが重要だと思いました。

● 今後の学生生活に活かしたいこと

自分の感じたいい感情を相手に伝えることがとても嬉しいことだと気づきました。自分も今まで以上に感性を伝えていきたいです。

また、私のクラスの先生はとても褒めることを大切にされている方だったので、いつもや

る気の起きない復習学習を毎日できたのでこれからも続けていきたいです。

自分がファッションを好きだけど、業界のビジネスについての知識が全くなかったので知識を取り入れていきたいです。

コミュニケーションを始めるにあたって自分の言語を理解してもらえないという心を常に持っておくことが大切だと思いました。

他の国の人のコミュニケーションの積極さに怖気付かずにどんどん仲良く何事もポジティブに考えることが大切です。

英語ではリスニングも大事だけど、日常的に使えそうなワードをたくさん知っておくことが大切だと思いました。ドラマや映画のセリフをたくさん繰り返して真似すると良いという記事を帰国間際に見つけて、やっておけばよかったとすごく後悔しました。

自分は映画が大好きなのでもっと好きなものを活用して勉強していきたいです。

服装学部ファッションクリエイション学科　１年

● 履修の目的・目標

履修の目的・目標は２つあり、１つ目は異文化の視点からファッションについて学ぶことである。私たちは普段実習で服をつくり、講義で素材や名称、デザインなどを学んでいるが、海外ではどのようなファッションの勉強をしているのか気になったので、日本と同じところや違うところを自分で実際に体験してみたいと思った。２つ目は行動力を身につけることである。授業を受けるにも、見学するにも自らが積極的に学ぼうという姿勢や発言することが求められると思うので、頭の中で考えるだけでなく行動に移せるようにしたいと思った。

● 研修で最も印象にのこったことについて

英語のクラスではペアやグループで話し合いや意見交換をすることが多く、コミュニケーションをとることを大切にしていると感じた。

授業の中でペアと意見交換する場面があり、自分の意見を英語で伝えることは難しかったが頑張って知っている単語で伝えてみると、すごくいいと思うと意見に賛同してくれて、最後にみんなの前でも彼女の言葉が心に残ったと言ってくれて嬉しかった。

クラスメイトたちはわからないことがあったらその場でみんなの前で先生に質問したり、考えたことをどんどん発言して間違っていても次の答えを考えてまた発言したりしていて、人前で間違えたりすることは怖いことではないなと身をもって感じた。

文化の授業では作図を４分の１で行うが、TAFE のファッションクラスでは３分の１で作図を行い、使っているミシンも文化は brother で TAFE は JUKI と日本とオーストラリアとの違いが感じられた。

● 研修を通して気づいた事・学んだこと

クラスメイトたちが自分や相手の意見にちゃんと向き合う姿勢をたくさん見て、自分の意見を大切にし、相手の意見にも興味を持つことが大切だとわかった。

オーストラリアに来てから、トルコ料理やコロンビア料理などのレストランで食事をし、寿司、中華、タイ料理屋などいろんな国のレストラン沢山見かけたので、移民が多い国だからいろんな国の料理もその分普及しているのかなと感じた。また、ヴィーガン向けの食事やグルテンフリーの食べ物がほとんどの飲食店やスーパーで取り扱っていて、いろんな人に対応していると気づいた。

今回の研修では直前まで詳細がわからなかったり、急に変更になったりという事態がたくさんあったが、こうだった場合は、といくつかの手段を想定しておくと冷静に行動できると学んだ。

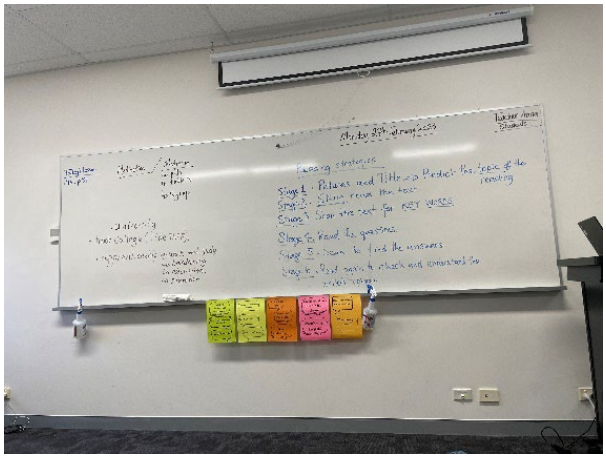
● 今後の学生生活に活かしたいこと

向こうでは早めの行動を心掛けていたので、本来乗るはずだったバスが来なかったり、電車が遅れていたりしても対応することができた。日本にいてもさまざまな事態を想定したうえで早めの行動を心掛けていきたいと思った。

研修に行く前よりも人前で発言したり、間違えたり質問することへの抵抗が少なくなったので、これから日本で授業を受けるときもその感覚を忘れないように心掛けていきたいと思った。

いろんな物事に対して自分の意見を持ち、人の意見にも興味を持って自分とは違った視点からの考え方を知ったり、自分の考えをより深めたりしていきたいと思った。

ほかの国の人とコミュニケーションをとってみて、お互いの国の文化や言語の違いを感じることできて面白かったので、日本でもほかの文化に興味を持ち続けていきたいと思った。



国際文化学部国際文化観光学科　1年

● 履修の目的・目標

語学力、特に話すことに力を入れたいというのが今回プログラムに参加した理由だ。
私は人見知りをするので新しい人達の輪の中に入れないことがあった。
目標はクラスや外出している時に出合う人それぞれに自分から話しかけることだ。
目的は 22 日間のなかで挨拶をされたらすぐに挨拶を返したり、思ったり、聞きたいことを拙い英語でもとりあえず話し、英語で会話する力と自分から話す力を身につけることだ。

● 研修で最も印象にのこったことについて

私が全く英語が聞き取れなかったことと英語のクラスでクラスメイトがゆっくりと話してくれたことそして問題を間違えてもクラスの中で恥ずかしい思いをしないという環境だ。いつもは同じクラスで授業を受けている武蔵女子大学の子が今日はシュノーケリングの日でいなかった。タイ人の子が話しかけてきてくれて、少し話せた。
コロンビアの子もなかなか私が分からないという顔をしていたら翻訳をしてわかるようにしたりとてもやさしいと感じた。先生もわかりやすく説明してくれた。間違えてもそれが盛り上がる一因になるので全く恥ずかしく感じなかった。
ジェットスターが大幅に遅れたので驚きだ。空港の放送でなかなか状況が分かる放送が出てこなかった。

● 研修を通して気づいた事・学んだこと

TAFE で英語を勉強していたとき文法を英語で学んでいて、日本では文法を中心的に学ぶので英語で教えられても理解できたがほかの国から来た子たちはちょっと苦労していた。しかし、ほかの国から来た子たちはとてもスラスラと英語を話していた。英語教育のどこに重点を置くかによってこんなにも変わることに驚いた。文法は気にせずに話しかけていくことがこれから英語でコミュニケーションを取っていくときに大事だと学んだ。電車でトゥウォングのショッピングモールへ行く時だが、行先は別の場所でもすべての電車が同じ形と色をしていたので判断するのが大変だった。駅員さんに聞いたら親切に教えてくれたので助かった。
その日は eat street へ夕食を食べに行くために船に乗った。電車に乗った時もそうだがオーストラリアは運賃が安いことに驚いた。船に乗っている間岸の建物を見ていたがとてもおしゃれで文化の建築学科の人たちにとっても学びになるなと勝手に思った。eat street では屋台がいくつも並んでおりそのほかにステージもいくつかあり、バンドが演奏していたり、DJ が演奏していたりするステージもあった。日本ではナイトマーケットのような夜に屋台が集まってステージがあってのような場所はないので新鮮だった。

● 今後の学生生活に活かしたいこと

飛行機の大幅遅延で、成田から家に車で帰っている途中に親から言われた、「とりあえず現地の旅行会社に連絡をする」ということを出来るようにしたい。私よりも親のほうが何十

回も旅行に行っているので、親にどうしたらいいかの対応を詳しく聞いていくことができるようにしたい。近くに慣れている人がいるのに頼らなかったのは痛恨のミスだと感じた。LCC の飛行機は近場の国や国内旅行に行く時ぐらいに使うようにしようと思う。

電車でトゥウォングに行くときに乗る電車を間違えてしまったので前日に生き方を詳しく調べてから行動に移せるようにする。

TAFE 英語クラスでは３人先生が代わる代わる来てそれぞれの先生の発音が違うので様々な発音に慣れることができるようになろうと思った。

国際文化学部国際ファッション文化学科　１年

● 履修の目的・目標

今回のプログラムの履修目的は２つある。1 つ目は英語力の向上だ。その中でもリスニングを伸ばしたいとと考えている。試験の際一番苦手としているのがリスニングで、雑音がない状況でも聞き取るのが苦手なので、今回のプログラムで雑音がある街やお店、授業などの状況下で、生活していくためにもリスニング力は必要なので、3 週間の研修でリスニング力を身に着けたい。2 つ目はオーストラリアの環境と文化を学ぶことだ。私は父と母の影響で海外留学に憧れており海外の気候や外国人の日常、価値観にとても興味があったため、今回のプログラムを通して、オーストラリアに住む人々、気候、環境を学ぶと共にオーストラリアの人々のファッションを学んでいきたい。

● 研修で最も印象にのこったことについて

オーストラリアの人々が優しく、自分に自信を持っていて、自分が好きなものを全面に出しているということだ。私は恥ずかしがり屋で自分を見せるのが苦手だった。だが、オーストラリアに来て、授業を受けているとクラスメイトは積極的に発言をし、友達同士の会話に先生も入ることが当たり前になり、自分から積極的に話せるようになった。また、最後の授業時にポジティブな考えをし続ける方法というテーマで 1 人２分程度発表しました。その時私は話したいことを言う為翻訳を使って原稿を作ったが、先生から原稿を持たず、あなたの力で頑張ってみなさいと言われ、原稿なしで発表した。最初は不安でいっぱいだったがクラスメイトと先生からの質問で自分が話したいことを自分の言葉で話すことができ、達成感を得ることができたこと。

ジェラートを食べに行った時、一つのカップに三つ入れるように頼んだが、店員さんが味が混ざらないように三つに分けますかと聞いてくださり分けてもらった。だが、三つに分けることで、一つのカップ三個分の値段になってしまい、こちらが損する形なってしまった。こちらと店員さんとの感じ方の違いがあり、コミュニケーションが難しいと感じた。

● 研修を通して気づいた事・学んだこと

オーストラリアでの生活が慣れてきて、会話をしていくなかで英語を聞き取れるようになったが、返答までの時間が長く、もう少し早く質問に対して返答したいなと思うようになった。また、圧倒的に知っている単語量が少なすぎる分、分かる単語でその話の内容を予測しているので、内容があっているのか、返答があっているかが分からないということが多くなった。このことから、今後は単語量を増やす必要があるのと、知らない単語の意味を聞くこと、自分の解釈と相手の解釈が間違っていないかを確認するための英語力が必要だと感じた。

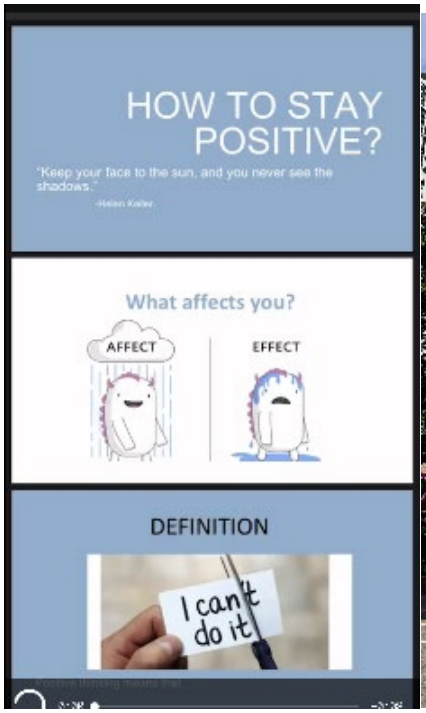
ゴールドコースト宿泊日程が日本旅行の方から頂いたしおりと TAFE で頂いたしおりで異なっていたことに友達が気づいてくれたことでエマさんへの連絡が早くできた。エマさんへ連絡する際の文章を父に手伝ってもらった。最初に自分で作った文章を父が契約に関することだからと訂正してくれた。今回の問題は決していい問題ではなかったが、契約に関す

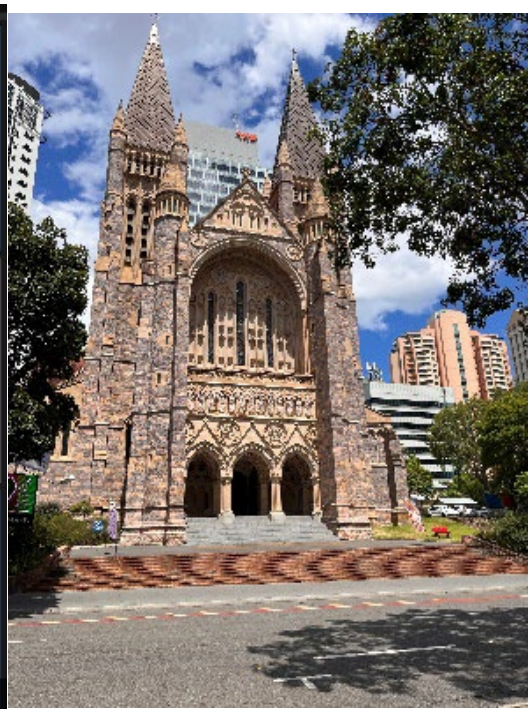
るときの文章の構成の仕方や対応の仕方を学ぶことができた。ただ、次この研修以外で留学した際、問題が起きたときは親に頼らず解決できるようにしたい。そのためにもまずは日常会話をきちんとできるようにし、また相手からの質問を瞬時に理解、返答できるようにしたい。

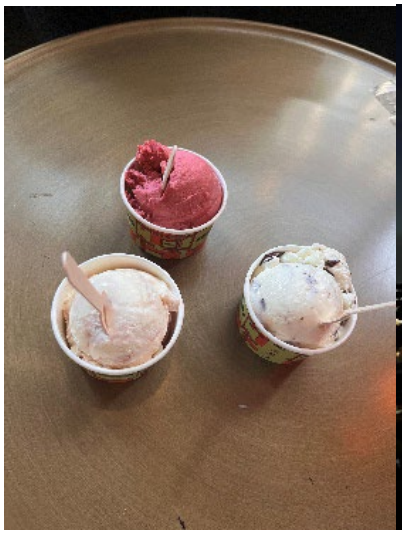
● 今後の学生生活に活かしたいこと

この研修で自分の英語力の低さが突き刺さる場面が多く、落ち込むこともあったが、一年生のうちに気づけたこと、ゴールドコースト宿泊に関しての問題や帰国の際の飛行機の遅延の問題に対してどう対応すればいいのかをこの研修で学ぶことができた。この経験は今後、学生生活や今後留学に行く際に活かしたい。

またこの研修で、英語も含め自分に足りないこと、自分の視野が狭かったことに気づくことが出来た。今後は気づいたというところで止まらず、この三週間で広げた視野を日本でも広げ続けること、英語で足りないと気づいた部分の強化を今後の生活で活かしていきたい。







服装学部ファッション社会学科　１年

● 履修の目的・目標

履修の目的は語学の強化です。目標は、現地で日本人以外の友達を１人以上作ること。コミュニケーションが取りやすいように、あいさつや相槌など普段使う言葉をオーストラリアのお店や街、他の留学生から学びたい。

● 研修で最も印象にのこったことについて

Hi,　How is it going? やHow are you?と自分に対して興味を持ってくれるような声のかけ方がとても印象的であった。レストランやショッピングモールへ行くと大体先ほどのように声をかけてきた。日本の店ではまず自分のことを聞かれないので、初めは聞き取れなかったけど、徐々に会話できるようになった。とてもおいしいランチが食べれたので、どうだったと聞かれ、自分なりにとてもおいしかったことを伝えると、エクセレントと言ってもらえて自分の気持ちが伝わってうれしかった。私はこの自分に興味を持ってくれている聞き方がとても素敵な文化だと感じたのと、学校だけでなく生活をすることでいろいろな人とはなせたことでもっとこれからの英語の勉強を頑張ろうとモチベーションにつながった。

● 研修を通して気づいた事・学んだこと

気づいたことは、自分の国のことも世界の建物や歴史、環境、ジェンダーや美の意識の違いについてのことも何も知らないことも分かった。今回大聖堂へいったが、きれいな建物だなとしか理解ができなかった。あとから文化遺産で歴史のある建物だということを知った。海外の人はスタンダードに宗教がふくまれているから、もっと宗教のことに関しても学びを深めたい。

● 今後の学生生活に活かしたいこと

プログラムに参加している仲間やTAFEで出会った人、オーストラリアで暮らしているひとたちなどのそれぞれの考え方に触れることができた。私は日本に留学したことのある人に自分の名前をほめられた。褒め合う文化はとても良いとかんじたので学園内でも自分が素敵だなと思ったものは相手に伝えてなコミュニティが増えればいいなと思う。

今回電車を間違えたり、宿泊日数が違ったり、飛行機が遅延したり、事実と異なるメールが届いたりと様々なハプニングがあった。確認をもっと早めにしておけば防げたこともあったと思う。リスクを考えて行動をとることは日本で生活するときも取り入れていきたい。

もっと言いたいことを伝えられればいいのにと思う場面が何回もあった。もっと英語を話せる環境に自分から行こうと思う。この改善策がでてきたのは研修内で積極的に話したから出てきたと思うので、意欲を忘れずに私の語学向上のモチベーションにして、これからも英語を学んでいきたい。

服装学部　ファッション社会学科　3年

● 履修の目的・目標

慣習の異なる場所で生活し、語学学校で異なる国や文化の人と会話することで、異文化について学ぶ。また、普段は英語ネイティブと話すことが無いが、ネイティブの人と意思疎通を図り、英語表現を日常的に実践することで、英語でのコミュニケーション力を伸ばす。将来は海外での仕事にも興味があるので、自分の意見を英語で伝えることに慣れる。

ブリスベンのファッションが日本とはどう違うのか、文化や気候などの観点から観察する。

● 研修で最も印象にのこったことについて

日本語を使わないコミュニケーションが楽しいことが初めて分かったことが印象にのこった。ラーメン屋さんで食事をしていたら、現地のアジア系の人に話しかけられ、自分のこの梅春研修について、日本の観光について会話した。翻訳機の助けを借りずに自分の言葉で相手と英語のやりとりができた。日本にいれば英語で雑談する機会はほぼないので、ブリスベンに来て良かったと感じた。

タイ人のクラスメイト友達になったことも印象的だ。元々タイが好きで、いくつかのタイ語の単語を知っていたので、それが会話の助けになった。自分が興味を持ったことがきっかけで得た知識は、いつか思いもよらない形で役に立つのだと思った。また、もっとタイ語が好きになった。

ブリスベンで出会った人は皆笑顔で優しく接してくれた。3週間という短い滞在期間だったため、一瞬の出会いだったことが寂しいが、Better than nothing と言ってくれた tafe の英語の先生のことばを思い出したい。

● 研修を通して気づいた事・学んだこと

ところが変われば人の考え方が異なることが身をもって分かった。一番考え方の違いで印象的だったのは、時間についてだ。英語の授業の前のオリエンテーションで、遅刻をしないようにとしっかり釘をさされた。しかし、授業では全てのクラスメイトが集まるのが本来の開始時間30分後であることがザラにあった。しかし、授業に対し、皆がわからないことを先生に必ず聞いており、本当の意味で英語を学びに行っている印象だった。極端な言い方になってしまうが、英語を学ぶという本来の目的を果たすために必要なのは、時間を守ることではなく、積極性だと分かった。

自分から挨拶すがることや物怖じしないで関わろうとすれば国籍が違っても言葉が 100%通じなくても友達になれることが分かった。むしろ、自由自在に操れる日本語の方が、言葉の伝わり方や相手に伝わったことと自分が伝えたかったことの齟齬に悩まされてコミュニケーションの心理的負担が英語より大きいと感じた。

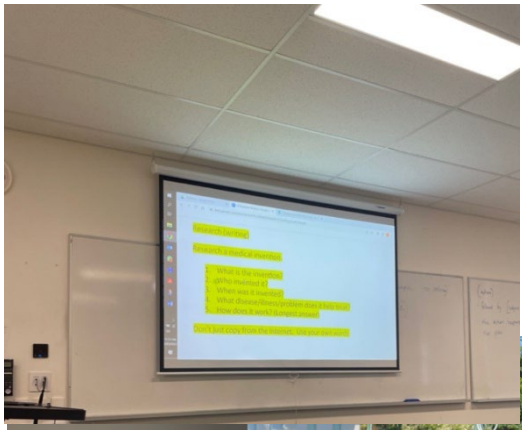
● 今後の学生生活に活かしたいこと

今後の学生生活では、主に3つのことを活かしたいと思う。一つ目は、人のことを気にし

すぎないようにすることだ。今までは「もし迷惑だと思われたらどうしよう」思い何もできないことが多かったが、それでは得ることの出来る経験が得られないので、あまり気にしすぎず積極的になりたい。

二つ目は、英語で話す機会があったら物怖じしないことだ。ブリスベンでは、企業に見学に行った際や授業で質問する際に英語を使わざるを得ない状況であったため、英語を使うことができた。日本では格段に英語を話す機会がなくなってしまう。せっかく掴んだ英語を話す際の感覚を忘れないようにするために、もし英語を話す機会があったら自分から動く。

三つ目は、自分が想定していなかったことに対して冷静に対処することだ。授業やバスや飛行機などの交通機関が時間通りにならないことや、英語が完全に理解することができないことがあっても自分にできることを考えて状況を把握して問題解決をしたい。



造形学部デザイン・造形学科　2年

● 履修の目的・目標

今回このプログラムに参加した理由は、正直に言うと、もう一つのシドニー研修に行けなくなったからです。元々行く予定だったシドニー研修では、ファッションショーやインターンなどたくさん興味のあるものがあったのでとても行きたかったのですが、残念ながら行けなくなったのでブリスベンでのプログラムを選びました。しかし留学自体に興味があり、シドニーに行けなくなったと説明があった時にブリスベン研修では色んな国の人たちが集まって授業を受けると聞いて、とても興味が湧きました。挨拶程度ですが英語以外の外国語にも触れてきているので、その国の人たちとその言葉で交流したり、国についても知りたいと思い参加を決意しました。

● 研修で最も印象にのこったことについて

初対面だからという壁が一切ないということが最も印象に残った。目が合えば会釈しあったり、バスや電車で隣になったり向かい側に座ったら挨拶をして少し会話をするという光景を何度も見かけた。わからないことがあったら近くにいる人に聞いたり、わたしがくしゃみをしたら心配してくれたり、イングリッシュクラスでも全く知らない私がいきなり教室にいてもクラスの子が驚いた様子がなく、話しかけてくれたのも驚いた。寮の中にいても近くにいたら話しかけられることも多く、そういった状況が普通になっていたおかげで自分も何かあったら気軽に聞ける環境でありがたかった。日本にいると他人に話しかけることはほぼないと言っても過言ではないのでそのギャップに感動した。

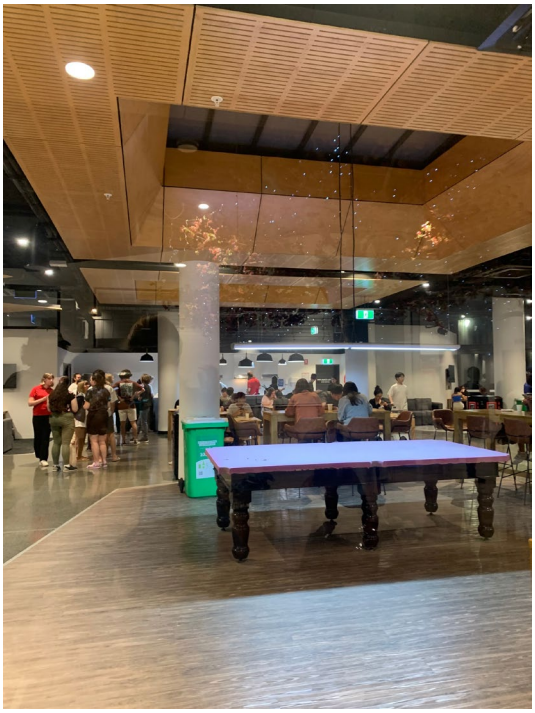
● 研修を通して気づいた事・学んだこと

自分の意見を持ち、積極的になることが大事。イングリッシュクラスでは結構な頻度でコミュニケーションアクティビティがあり、その度に瞬時に自分の意見を言うようにしたり、質問に対して yes、no だけでなく why までがセットになることが多かった。自分は瞬時に意見を持つのも回答するのも焦ってしまい、なかなかうまく伝えられないことが多かった。普段から何も考えないで生きているのが裏目に出てしまったと思う。授業中もわからないことがあればすぐに先生に聞いたり、何か回答するときは当てられる前に誰かが合ってようが間違ってようが答えたりと積極性を目の当たりにした。そうすることでインプットアウトプットがうまくいっているのかなと思った。

● 今後の学生生活に活かしたいこと

TAFE のファッションプログラムの時におばあちゃんがいて何歳になっても学びを続ける姿勢に感動した。学んだことも含め、自分も積極的に学びを続けて行きたいと感じた。自分の学科は授業を受けるというより、作品作りが基本で積極的になる場面は少ないが、それでもプロの先生方に教わっているという自覚を持ち、吸収できるものは全てできるようにしたいと思う。

prime video



BEACH

服装学部ファッションクリエイション学科　２年

● 履修の目的・目標

リスニング力を伸ばすことが一番の目標です。その為、現地の方や、クラスメイトとのコミュニケーションを積極的にしていきたいです。

また、日本とは違った海外の教育スタイルを受け,語学力を伸ばしたいと考えています。英語を学ぶことの他に、海外で生活することで、現地の料理や文化、宗教、などの新しい環境から、新しい価値観を得ながら、生活力やトラブル対処能力などの力も身に付けたいです。

● 研修で最も印象にのこったことについて

気さくで親切な人が多いことが印象に残りました。スーパーやコンビニ、飲食店の店員さんは困っている時はもちろん、そうで無い時も明るく話しかけてくれました。そして街中では人と目が合った時には必ずニコっと笑顔で挨拶をしてくれました。電車やバスで隣の席に座った人同士友達になるという場面もよく見ました。この文化は私にとって衝撃で、感動しました。

また街並みや建物、自然が美しく、外に出るたびに幸せな気持ちになれました。そしてその他にもイベントが多いと感じました。観光スポットのため多いと考えていましたが、水曜と日曜には屋台が多く出店するマーケットが開催されたりと、賑やかな街の印象でした。このような雰囲気がここに住む人たちのおおらかで明るく優しい人柄をつくっていると感じました。

● 研修を通して気づいた事・学んだこと

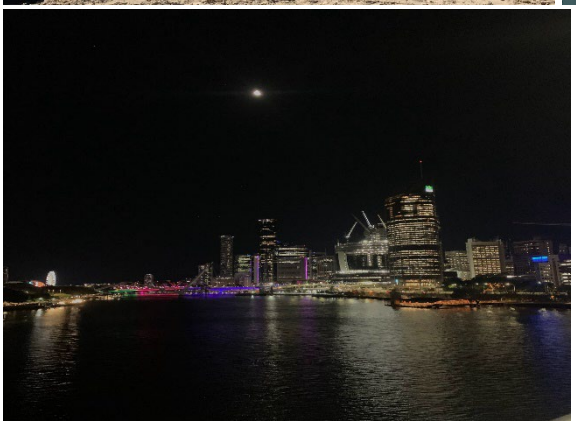
研修で学んだことは二つあります。

一つ目は多国籍の方々とコミュニケーションをとることで異文化に触れることが出来た点です。英語が上手く話せない私にとって、この研修はとても不安でしたが、授業ではグループワークや、ペアワークの内容が多くあり、また私のクラスは毎回教室が変わり、毎回席が変わりました。そのため、より多くのクラスメイトと会話をすることができました。クラスにはコロンビア人、タイ人、ブラジル人がおり、休み時間にはそれぞれの文化について話すこともありました。また、英語がなかなか伝わらない時には似ている意味の単語を沢山出し、お互い教え合いながら会話をしました。

二つ目は積極性の大切さです。相手のことをもっと知りたくて正しい英語ではないけれど、恐れず質問をし、会話をしました。この時正しい文法ではなく、単語を何とか繋げ、ジェスチャーを使いながらの会話でも相手に伝わることに気づき、積極性がコミュニケーションを取るのに大切なことだと学びました。

● 今後の学生生活に活かしたいこと

生かしていきたいことは主に二つあります。

一つ目は積極性です。自分の意見を伝えることの大切さを学び、授業内では自分から積極的に話しかけることはもちろん、間違いを恐れずに意見を言うことを意識しました。

二つ目は自信です。自分の英語力ではどうせ伝わらない、と考えてしまうこともありました。しかし、言語や文化の異なる相手と仲良くなるためには積極的なコミュニケーションが必要不可欠でした。授業内でのワークで自分の伝えたいことを伝えられた時の喜びが自信に繋がり、徐々に英語で話すことに積極的になることができました。恐れずに発言していく積極的な姿勢はこれからも続けていき、視野を広げていきたいです。